

# 保健科学研究科 保健科学専攻 博士（後期）課程

## 概要

保健科学研究科博士（後期）課程は、修士課程の目的をさらに充実させるために平成16年4月に開設されました。

我が国における高齢化の急速な進展などがもたらす近年の著しい社会変化への対応は、保健医療領域においても極めて重要な課題であります。特に高齢者・障がい者の疾病の重度化ならびに複雑化による諸問題の解決のためには、より高度な専門性と指導力を備えた人材が求められています。そこで、修士課程の目標である「高度な専門的現職者教育」「社会人に対する生涯学習」に加えて、「個人の学習環境に立脚した特色ある研究」の遂行を通して、大学院学生が所属する医療あるいは教育現場の中心的役割の担い手となり、その現場さらには関係領域での学問的水準の向上を目指しています。

また、保健医療に関して、治療よりも予防的対策が求められている今日、保健科学に関連するあらゆる分野において他の領域と密接に連携することで、コ・メディカルの発展・充実が期待されていますが、それに適う人材が極めて少ないのが現状といえます。保健科学研究科博士（後期）過程では、その社会的ニーズに応えられる人材育成を目指した教育課程を編成しています。

## 開講科目

### [必修科目]

保健科学総論特殊講義

### [共通選択科目]

機能障害学特殊講義

機能矯正学特殊講義

精神医学特殊講義

機能形態学特殊講義

臨床薬理学特殊講義

感染症学特殊講義

免疫学特殊講義

### [専門必修科目]

機能障害学各論特殊講義

機能矯正学各論特殊講義

### [総合科目]

保健科学特殊研究

## 教育課程の編成

博士（後期）課程では、現職の保健医療従事者あるいは教育担当者に対し、最新の理論や知見などを教授し、より高度な学問体系の構築と技能を習得させる観点から、教育課程を編成しています。具体的には、必修科目、共通選択科目、専門必修科目ならびに総合科目の4群に分け、カリキュラムの体系化を図っています。

履修の流れとして、まず必修科目である「保健科学総論特殊講義」を履修し保健科学研究に関する方法論についての認識を深め、次いで「機能障害学特殊講義」など7科目からなる共通選択科目において、学際的な学修を行うようにしています。さらに専門必修科目である「機能障害学各論特殊講義」などにおいて、各領域について専門的に学習を深め、総合科目の「保健科学特殊研究」において研究課題についての研究を完成できるように編成されています。保健医療に従事する現職者等に対する最新の検査・治療援助を中心とした研究を課し、特にリハビリテーションに関する検査・療法を理論的・実践的かつ体系的に学習し、また、より高度な実践研究能力を習得させることを目的にしている点が特色としてあげられます。各講義における科目の名称は単一ですが、いずれにおいても複数の教員を配置し、研究題目によって最も適した教員による研究指導が行えるように編成されています。